

令和4年度第2次補正
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援 補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社紀伊國屋書店

【サービス名称】

アクチュアル

ジャパナレッジSchool

【サービスの機能分類】

区分A-1 メインサービス

区分B メインツール

2024年1月

ICT × 探究



ジャパナレッジSchool

■探究学習等サービスの概要



教員の負担が大きい探究学習とICT活用。“アクチュアル”は、豊富かつカスタマイズしやすい教材群と、ICTならではの便利な学習管理機能でその課題解決を支援します。

【特徴】

- ・1コマで取り組めるものから、年間通じた探究学習をサポートする副読本まで、様々なレベルやニーズに対応した教材を多数収録しています。
- ・時間数や学力など、それぞれの学校のご事情に応じて、教材は自由にアレンジして使えます。

※年間利用料金：生徒一人あたり1,100円/税込

※ご契約は学校もしくは学年、学科単位となります。

※教職員の方の料金は無償です。

【活用場面】

“アクチュアル”収録の教材を以下の場面で使用します。

- ・中学校「総合的な学習の時間」
- ・高校「総合的な探究の時間」
- ・国語・数学等各教科での探究型学習

【サポート内容】

導入から活用まで幅広くサポートします。

- ・導入サポート：授業を想定した操作方法を具体的に説明します。
- ・活用サポート：利用中も定期的に操作・授業の両面でお困りの点や課題を解決します。
- ・授業計画サポート：学校の到達目標や年間計画に合った“アクチュアル”の活用方法を提案します。



■探究学習等サービスの概要

ジャパンナレッジ School

各出版社から提供された信頼できる情報をいつでもどこでも利用できるオンライン図書館

【特徴】

・『一括検索』を柱にした多彩な機能で効率的な学習環境を実現

- ・1人1アカウントで、いつでもどこでも利用できる
- ・SSO対応でどんな端末からでもすぐに使える
- ・2024年1月現在全58コンテンツ・約1000冊が収録

※年間利用料金：生徒一人あたり3,300円/税込

※ご契約は学校もしくは学年、学科単位となります。

※教職員の方の料金は無償です。

【活用場面】

- ・教科横断型の探究学習
- ・様々な教科での調べ学習
- ・進路指導
- ・受験対策



【サポート内容】

- ・信頼性のある辞事典・文献・データベースにいつでもアクセスできることで、生徒が自ら調べる力・学ぶ力を強化できます。
- ・文章を引用する際、コピー＆ペーストした本文テキストに引用元を自動的に追加する機能があり、生徒の情報リテラシーに対する意識を高めることができます。
- ・統計データ、図などは、著作権的な許諾を行っているため、先生方が安心して教材に活用いただけ、授業準備の手間を省くことができます。

■学校等教育機関の課題と解決策



探究的な学びにどう取り組むか

- ・探究的な学びではこれまでの一斉授業とは異なる取り組みが必要となるが、教員ごとに温度差やスキルの違いがあり、なかなかその取り組みが校内に定着しない。
- ・“アクチュアル”は、豊富な導入教材で探究学習に不慣れな教員でもスムーズに授業ができるようにサポート。教員間の意識やスキルの差を平準化するとともに、探究的な学びの浸透・定着を促進する。

「総合的な探究（学習）の時間」をどう運営するか

- ・通常業務で多忙を極める中で、専任の教員がない「総合的な探究（学習）の時間」の授業運営は困難を極める。
- ・“アクチュアル”は、すぐに取り組める導入教材や、生徒が自ら主体的に探究学習に取り組める教材を用意し、教員の負担を軽減する。

端末をどう活用するか

- ・一人一台端末が整備されたものの、授業でどう使えばいいか、授業デザインができていない学校はまだ多い。
- ・“アクチュアル”は、ウェブ上に具体的な活動内容を示した上に、ワークシートや発表資料のひな型を用意しており、授業時の端末活用を促す商品構成になっている。

ジャパンナレッジSchool

一人一台端末に即した授業デザインをどうするか

- ・一人一台端末が整備されたものの、授業でどう使えばいいか、授業デザインできていない学校がまだ多い。
- ・“ジャパンナレッジSchool”では端末で活用できるコンテンツを多数提供し、探究学習や教科学習、朝読など様々なシーンで一人一台端末を活かした授業利用が可能に。

生徒の情報リテラシーをどう育成するか

- ・生徒は基礎的な情報リテラシーが身につけていないことが多く、玉石混交のWeb検索に頼った調査活動では誤った事実を元に学習を進めてしまう懸念がある。
- ・“ジャパンナレッジSchool”は出版社が精選した信頼性がある情報のみを掲載。生徒にまず“ジャパンナレッジSchool”を検索させることで、正しい情報の重要性を学ぶ機会を提供し情報リテラシー育成に寄与する。

生徒の「主体的・対話的で深い学び」をどうアシストするか

- ・生徒自らが自身の興味関心に基づいて答えのない問いに挑戦する際、それをサポートするための教材・資料が学校で準備できておらず、生徒の学習をアシストしきれていない。
- ・“ジャパンナレッジSchool”は約1000冊の書籍に自由にアクセスが可能で、検索によって生徒は自らの問いに適した情報を得ることができる。また、教員の資料準備の手間も軽減する。

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

● アクチュアル活用事例

長野県豊科高等学校
 対象学年：高校1年生
 対象生徒数：202人



☁️ 学校が抱えていた課題

- 探究についての経験や知識が十分でない。
- 授業の柱になるような教材や素材がない。



個々の探究学習（テーマ決め・課題設定）に活用

総合的な探究の時間で生徒個々人が探究課題に取り組むのに先立ち、アクチュアルの調べ学習編「探究の前に【事前学習】」を利用し、探究に取り組む意義を確認。

その後、調べ学習編：テーマの決め方【課題の設定】> 問いのタネを探すを元に、探究課題の設定を進め、フィールドワークに活かした。

💡 知識のベースづくりに
 教員にとっても生徒にとってもよりどころとなる教材ができたことで探究をスムーズに進めることができるようになった。

💡 生徒のペースで学習
 生徒はオンライン利用に慣れているため、紙版の教材より使いやすく、考えがより深まった。

授業資料（アクチュアルを活用するためのワークシート）→



テーマの決め方【課題の設定】
◎ 課題について
A. 問いのタネを探す
B. 問いを具体化して育てる
C. 課題として適切かチェック

2023/10/26

1 学年探究の時間

「アクチュアル」ワークシート②

組 番 氏名 _____

- * 今後の概要を説明します。3～4名のグループ単位で探究活動に入ります。1 2月までは模擬授業的な位置づけでグループごとに学習を行います。
- 11/9 ガイダンス（外部講師 2時間続き 第2体育館）
- 11/30 ワンダリングチャレンジ（模擬探究）事前指導 7限のみ タブレット使用
- 12/15（金）終日 ワンダリングチャレンジ 基本、校外へ出ます。（昼食も）
- 年明けからは実際の探究活動に入ります。2月には2年生の発表会に参加。そこでの学びを自分の発表に生かしてください。

本時の課題

- ① クラス内で3～4名のグループ作成。気の合う仲間同士で結構です。うまくいかないときは担当の先生に相談してください。探究テーマは後で決めることとなります。
- ② グループができたクラスから、アクチュアルにログインしてください。
- ③ 「調べ学習」をクリック。今回から「テーマの決め方」に入ります。Aから順に読みTaskも課題をしっかり行って、自分が学び理解したことをまとめてください。

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

● アクチュアル活用事例 神奈川県立横浜清陵高等学校 対象学年：高校1年生 対象生徒数：314人

清陵高校のこういうことが知りたい！！

「清陵高校に新しい〇〇を取り入れる」という提案を課題とした探究活動に向けて清陵高校の課題が見つかるような質問を考えましょう。
 一人10個ずつ（もっとあってもよい）質問を考えて入力しましょう。
 タグにキーワードを入力すると後で分類しやすくなります。
 そこから重要なものを絞り込みます。

番号	氏名	質問	タグ	通し番号
①				
①				
①				
①				
①				

↑ 授業資料（質問項目検討シート）

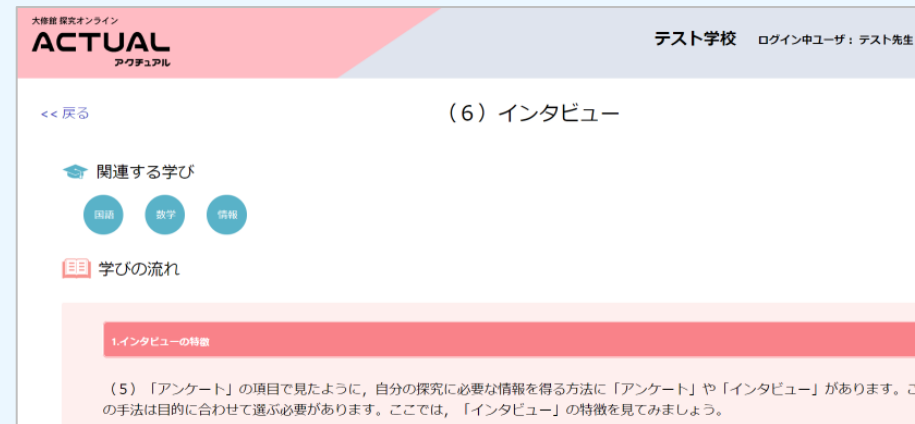
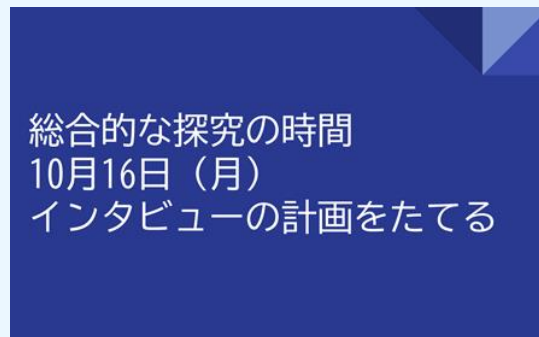
学校が抱えていた課題

- 教員・生徒ともに探究の知識があまりなく、試行錯誤しながら進めていた
- 教員が自作でワークシートを作成するなど、授業準備の負荷が高かった



インタビューの事前準備と教科学習に

校内インタビュー実施前に、アクチュアルの課題研究編「課題の設定・情報の収集：研究計画を立てる」のうち、(5)アンケートと(6)インタビューを活用し、取り組み方を学習した。
 またGoogle Classroomにアクチュアルの「ミニ探究」「ミドル探究」を掲載し、教科学習でも利用した。



💡 学外学習の事前準備に

インタビューはアレンジに手間がかかり、生徒の事前の学習に手が回らなくなりがちだが、アクチュアルの資料やワークは、具体例もあってわかりやすかったため、自信をもって取り組めるようになった。

💡 各教科にも探究的な学びを

普段活用しているGoogle Classroom上でアクチュアルの教材を利用した。

💡 授業準備の負荷を軽減

授業準備が楽になり、助かった。

●ジャパンレッジSchool活用事例

静岡県立清水東高等学校

利用学年：高校1年生～3年生

利用生徒数：851人

朝読の時間にジャパンレッジSchoolを活用。「ニュースウィーク日本版」から各自の興味関心に合わせ記事を選択。要約し、意見文を作成するワークを行った。

学校が抱えていた課題

- 1年次は小論文指導の時間があるが、2年次には全体での指導時間が取れない。
- 時事問題を取り上げた要約に足る課題文がなかなか見つからない。
- 大学入学共通テストでは資料読解や長文読解の問題が複数出題される。初見の文章への対応力をつけてほしい。

毎朝10分、新しい課題に挑戦

：小論文指導 原川 理恵子先生

【ワークの流れ】

毎日の朝読書の時間にニュースウィークのバックナンバーから気になった記事を読み、要約と感想を簡単に記入。2週間をかけ10本分の記事をストック。その中から1本選び、より詳しい要約と200字意見文をプリントにまとめる。

目的の資料へ素早くアクセス

ジャパンレッジSchoolのプラットフォームでは雑誌を表紙から一覧視でき、キーワードによる検索も可能。「AI」や「ChatGPT」など最新の話題も含め、各生徒の興味関心に基づく記事選びが容易に行え、短い時間の組み合わせでもしっかりとした成果物の作成が可能になった。

信頼性が高く質の良い情報源

「ニュースウィーク」の記事は、事実の記載に止まらず記者の意見も反映している署名記事。それらの要約を反復することで、生徒自らも独自の意見文を作成できるように。

多様な文章リソースとして

古典文学全集全巻や新書も多く搭載されているため、課題テストや、総合型選抜入試対策としての小論文指導など活用の幅が広げられる。



もともと生成物の著作権については興味があった。便利なAIが瞬く間に広まったが、使われるうちに悲鳴をネット上で耳にするようになった。AI学習には必ず著作物が必要である。素材になる他者の知的財産が必須だということだ。しかも許可無しで利用されてしまうことが多い。知的財産が危うくなるケースは割と身近にある。絵を生業にしているイラストレーターの絵をもとに、AIにその絵柄を学ばせ、別の絵を描かせてより安価で売るとしてそれによってそのイラストレーターの生活が危うくなっているという記事を過去に読んだ。知的財産権を裁判で争うとしても被告は誰になるのだろう、AIなのか、利用した人なのか定義が曖昧すぎてわからないとずっと疑問に思っていた。だからこの記事は興味深く、国が動くべきだというライターの考えに深く共感した。

↑AIと著作権の問題について各国の状況や法整備の必要性も踏まえた意見を展開している。

↓ドイツにおけるキャッシュレス化問題についての記事から、将来的な懸念も交えた意見が述べられている。

現金は自己管理がしやすい。プライバシー問題は世界共通

現金は残しておくべき。完全キャッシュレス化はしないべき。

私は完全なキャッシュレス化には反対であり、ドイツを例にみてもキャッシュレス化は経済にとってそこまで重要ではない。しかし、デジタルマネーが完全に普及し現金がなくなるとすると大きな懸念が生じる。それはお金に対する信頼感が突然なくなる恐れがあることだ。デジタルでは単なる数字が金額を表す。いつかその数字を信頼できなくなる風潮がおき、金に置き換える動きが強まり、逆に経済が回らなくなるのではないだろうか。

●ジャパンナレッジSchool活用事例

宮城県仙台向山高等学校

利用学年：高校1年生～3年生

利用生徒数：593人

探究、キャリア学習などジャパンナレッジSchoolを幅広く活用。古典の授業では『源氏物語』を題材に、搭載されている複数の辞書を参照しながら、現代の言葉と古語の違いや【つながり】を発見するための課題を実施した。

学校が抱えていた課題

■生徒に辞書を引く習慣が定着せず、インターネット検索に頼ってしまう。

■古典の授業では受験勉強のために古語単語を暗記するだけになってしまいがちなため授業にも工夫が必要。

■大型辞典や全集、新書などは図書館に一冊ずつしかない、生徒が持っている辞書も同じとは限らないという状況下で、課題作成や探究への取り組みに制限があった。

温故知新のことは探究

【ワークの流れ】

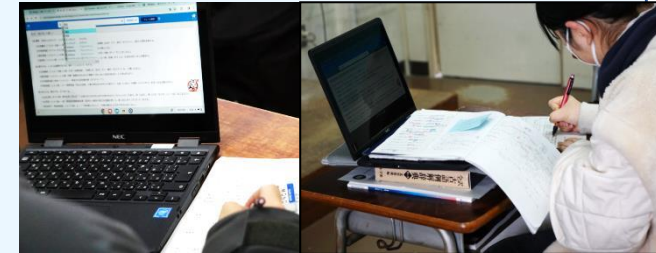
指定された語について『源氏物語 第五帖 若紫』における意味を調べ、現代語との違い、さらには【つながり】を発見することを目的としたプリントを作成。題材にちなみ、想定解のあるものから答えのない問いまで、各々の取り組み応じ、レベル★小柴垣、レベル★★惟光、レベル★★★光源氏を設定。個人作業とグループワークも組み合わせながらことばに関心をもち、理解の深化を促す授業を展開した。



国語科：
早坂 晴子 主幹教諭

辞書の引き比べで言葉を豊かに

ジャパンナレッジSchoolは大型辞書を含め編纂方針の異なる辞書を複数搭載。それらを目的別に使い分けることで、語積だけではなく、多角的な視点からの【ことば】の探究が可能に。今回の指定辞書は以下の通り。



語が使い始められた時期がわかる



日本国語大辞典
現代語、古語、方言の知識も広範にカバー。初出主義に基づき編纂

本文内容の正確な理解を促す



全文全訳古語辞典
高校での学習に必要な古語をもれなく網羅。図や表、コラムも搭載。

現代語とのつながりを発見



岩波国語辞典第八版
社会や日常生活の変化に応じて語義を追加。実例重視。現代国語例解辞典
コーパスを活用し、言葉の使われ方の微妙な違いを詳細に調べることが可能。

小さな図書館を持ち歩く

同校の学びでは「本と出会い、本をもとに人に伝え、本を通じて社会や学問とつながる」ということを大切にしている。ジャパンナレッジSchool＝「小さな図書館」を各生徒が持つことで、リアル図書館の混雑が解消され、いつでもアクセスできるという手軽さから、課題図書についても吟味しながら選ぶことができるようになったという声があった。また電子で読んだ本を紙でも読んでみたいと自ら購入する生徒もいて、本との出会いの間口も広がっている。



■ 探究的な学び支援補助金における導入実績



設置者数：14機関 学校数：23校

都道府県	学校等 設置者数	公立中学		公立高校		私立中学		私立高校		合計	
		導入校数	生徒数	導入校数	生徒数	導入校数	生徒数	導入校数	生徒数	導入校数	生徒数
茨城県	1			1	944					1	944
東京都	5			1	706	4	646	5	2,198	10	3,550
神奈川県	1			4	3,649					4	3,649
長野県	1			2	1,095					2	1,095
愛知県	1			1	1,075					1	1,075
岐阜県	2			1	721			1	372	2	1,093
大阪府	1			1	479					1	479
大津市	1	1	769							1	769
京都府	1							1	977	1	977
合計	14	1	769	11	8,669	4	646	7	3,547	23	13,631

※両サービス導入校はそれぞれにカウントしております。

■探究的な学び支援補助金における導入実績

ジャパンナレッジSchool

設置者数：20機関 学校数：38校

都道府県	学校等 設置者数	公立中学		公立高校		私立中学		私立高校		合計	
		導入校数	生徒数	導入校数	生徒数	導入校数	生徒数	導入校数	生徒数	導入校数	生徒数
宮城県	1			1	593					1	593
茨城県	1			3	2,345					3	2,345
埼玉県	1			1	700					1	700
東京都	3					3	383	4	1,353	7	1,736
神奈川県	1			5	4,520					5	4,520
新潟県	1			1	845					1	845
長野県	1	1	240	4	2,219					5	2,459
静岡県	1			1	851					1	851
岐阜県	1							1	372	1	372
大阪府	2			1	641	1	317	1	760	3	1,718
奈良県	1			1	941					1	941
兵庫県	2			2	758	1	261	1	272	4	1,291
愛媛県	1					1	268			1	268
熊本県	1	1	220	1	667					2	887
海外	1	1	170							1	170
合計	19	3	630	21	15,080	6	1,229	7	2,757	37	19,696

※両サービス導入校はそれぞれにカウントしております。

■探究学習等サービス活用による成果

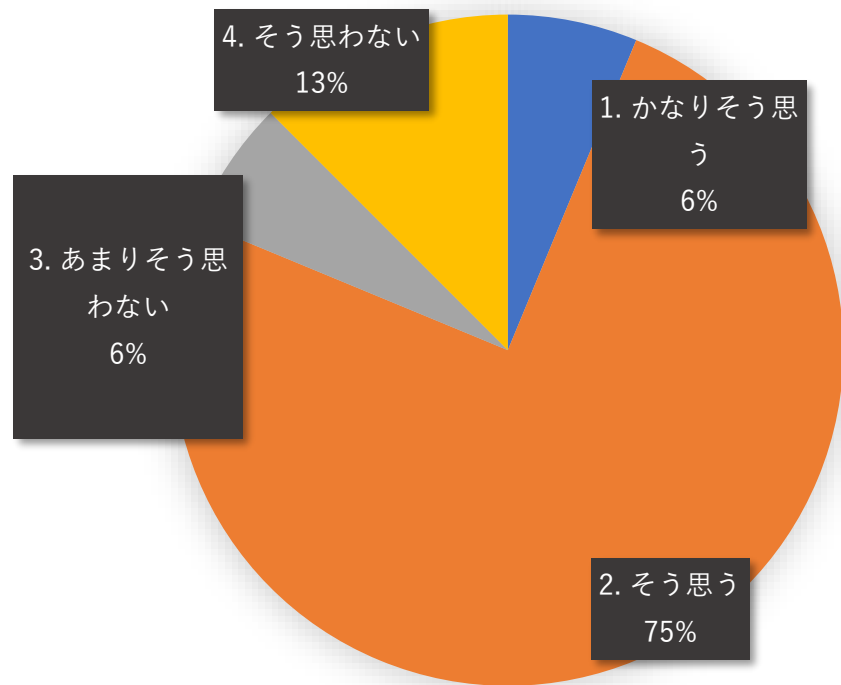


教員

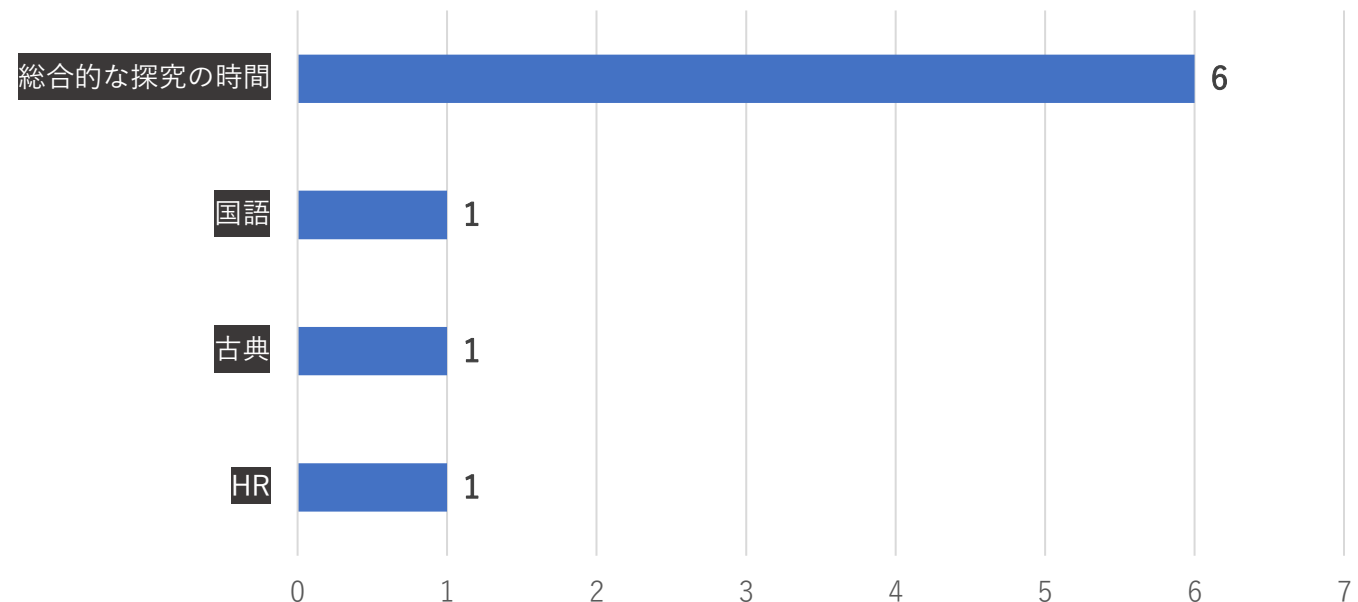
回答数：16名

8割の教員が探究学習で標榜される『主体的・対話的で深い学び』において活用できると回答、探究学習に特化したサービスであるため、各教科における探究型学習においても活用された。

主体的・対話的で深い学び



活用場面



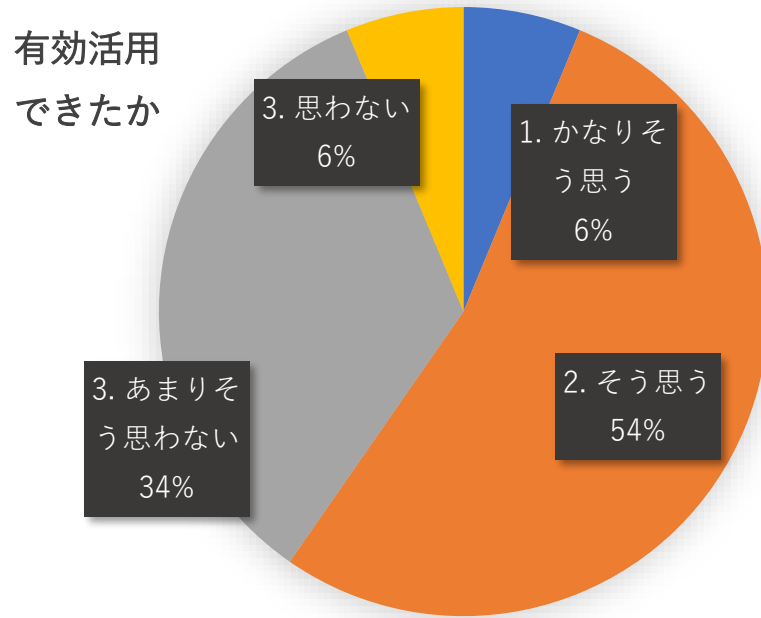
■探究学習等サービス活用による成果



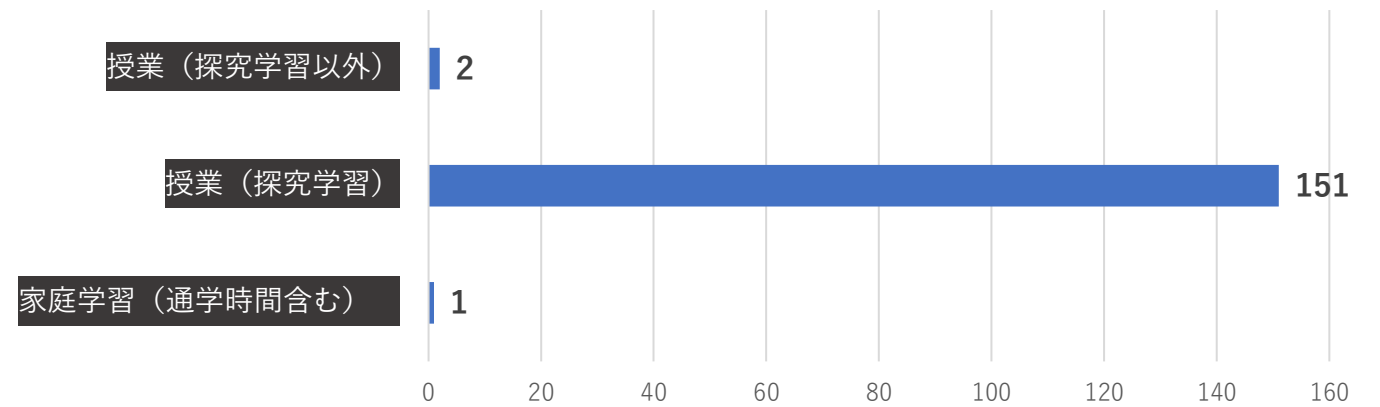
生徒

回答数：176名

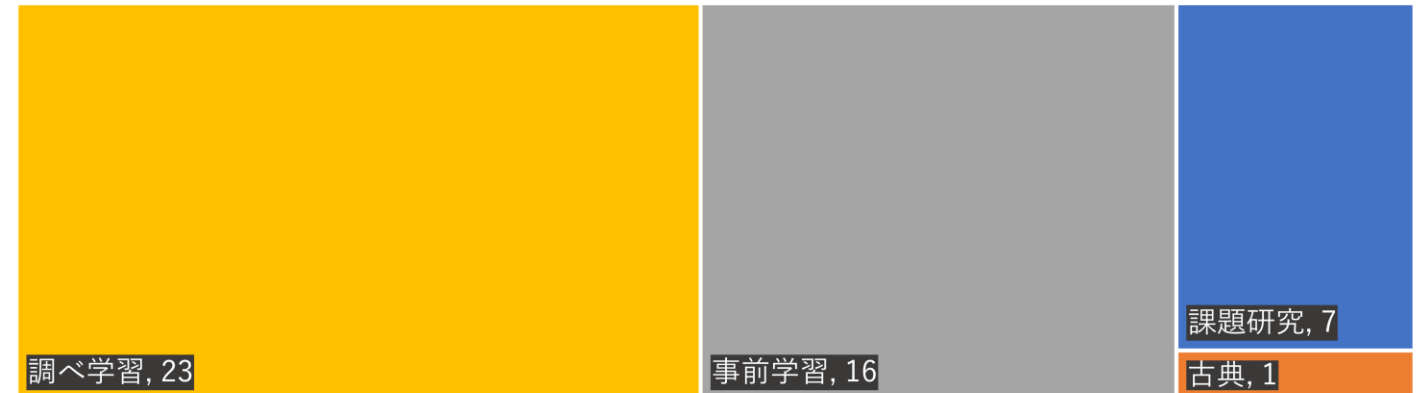
6割の生徒が有効活用できたと回答、特に事前学習、調べ学習、課題研究において特に活用された。



活用場面



具体的な活用シーン



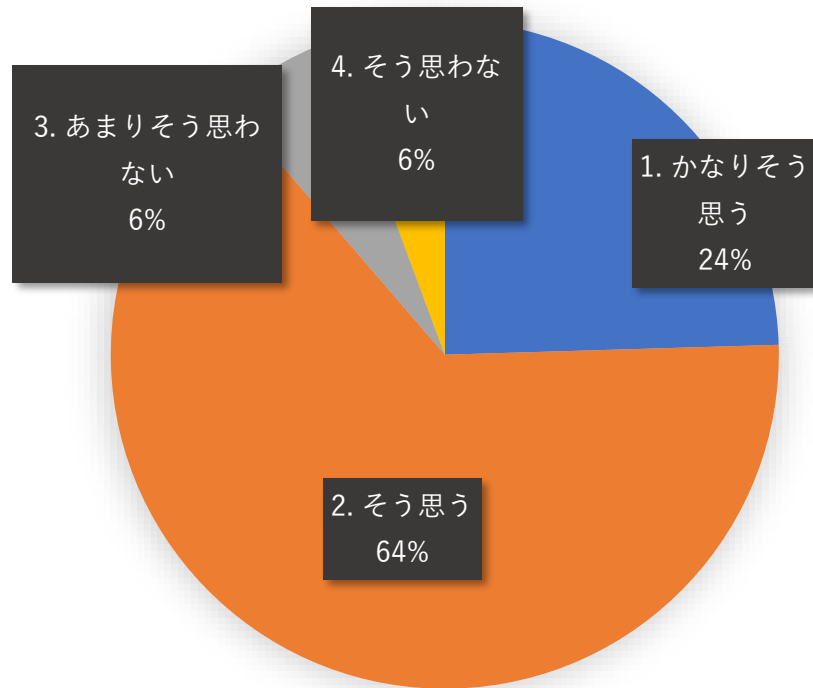
ジャパンナレッジSchool

9割の教員が探究学習で標榜される『主体的・対話的で深い学び』において活用できると回答、総合学習支援ツールというサービス特性上、様々な教科学習においても活用された。

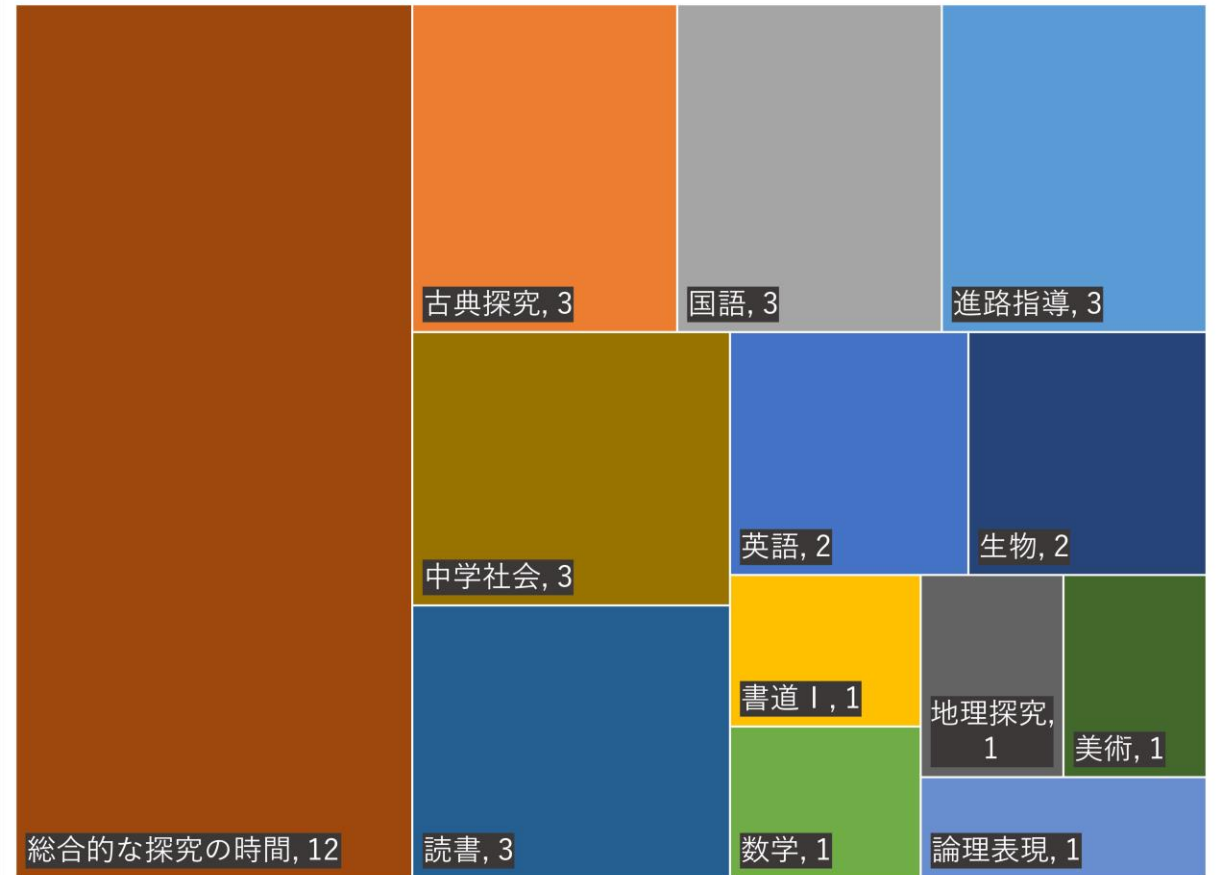
教員

回答数：55名

主体的・対話的で深い学び



具体的な活用場面



■探究学習等サービス活用による成果

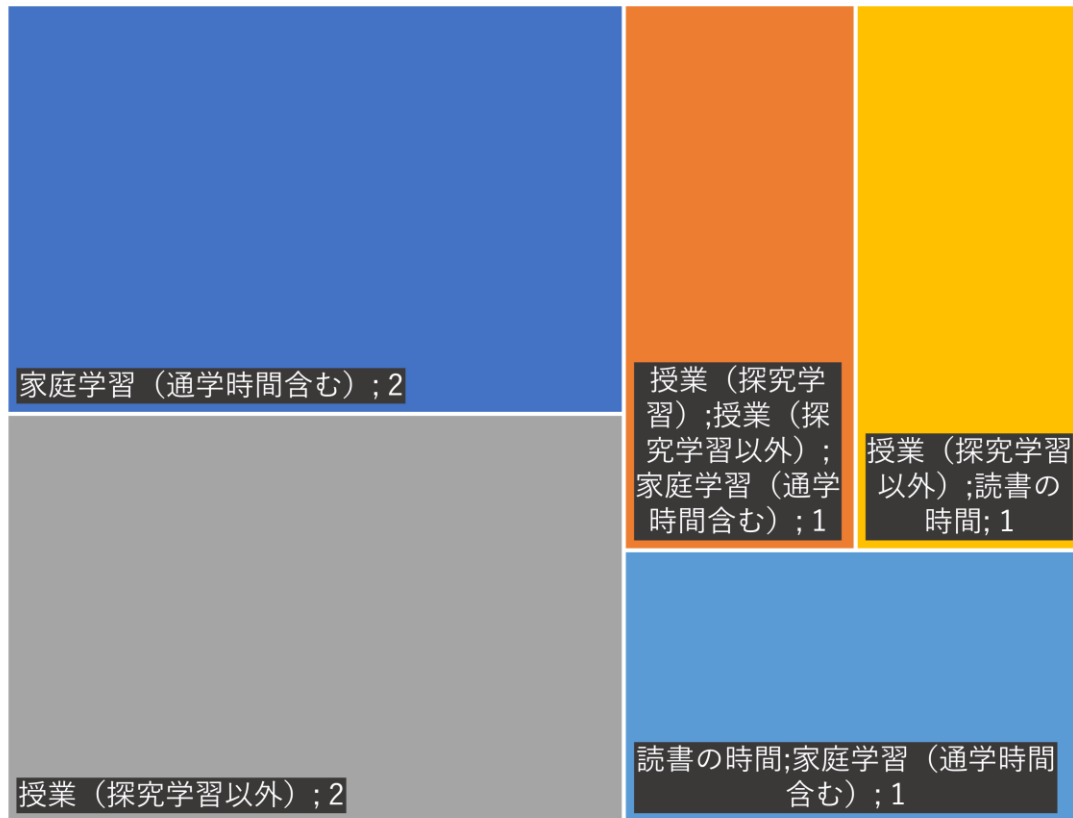
ジャパンナレッジSchool

生徒

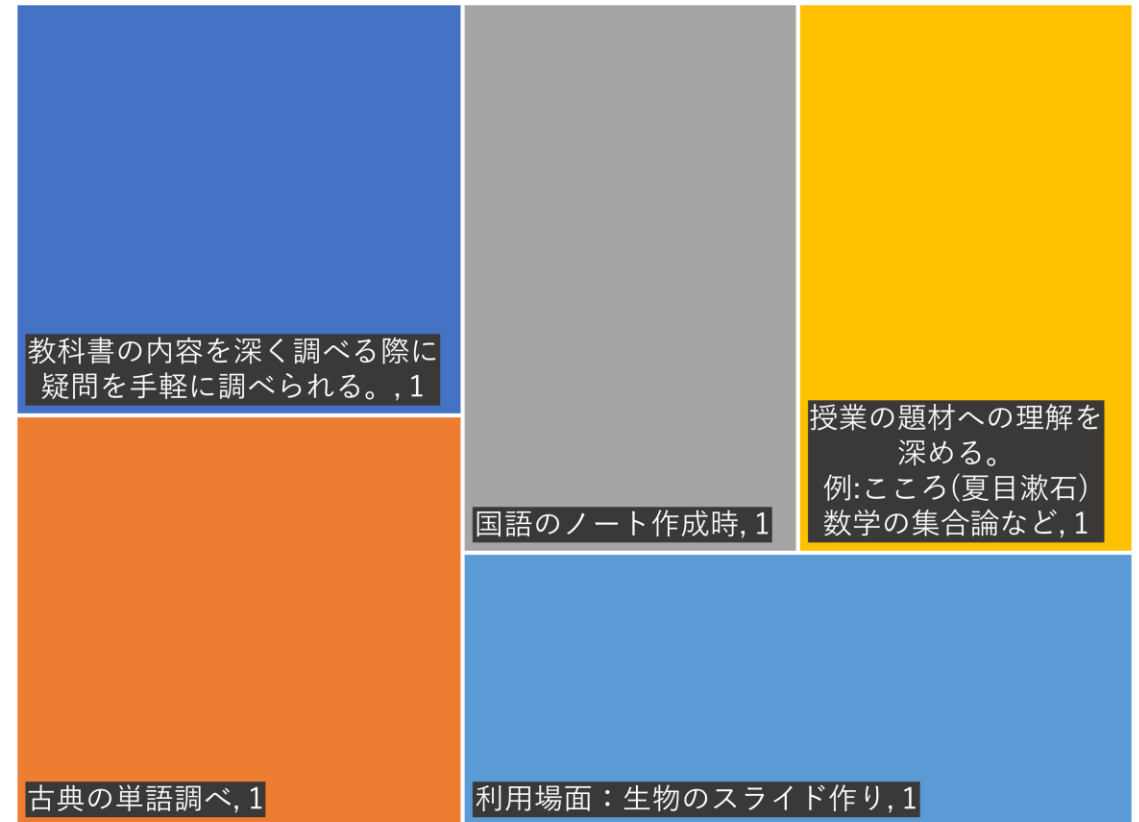
回答数：14名

生徒においても探究学習のほか、古典、国語等の教科学習で活用された。加えて家庭学習においても活用された。

活用場面



具体的な活用シーン



■ サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

課題①

利用開始時期

補助金による利用開始時（9月）には、既にカリキュラムが固まっており、学校側が活用するための調整・授業時間確保が困難

改善策

- 総合的な探究（学習）の時間のみに捉われず、教科の授業の中でサービスを使った探究的な展開ができる旨、提案していく ex.グループ・ディスカッションでの活用など
- 補助金を想定して、新年度開始前からツールを活用したカリキュラム案を提案する（アクチュアル）
- カリキュラム開始後は説明会を積極的に実施し、年度途中のツール活用についても提案・サポートできるようにする（アクチュアル）

課題②

複数キーパーソンの把握

探究は複数の教員が担当することが多いため、ツールの意図・利用意識の共有に時間がかかったり、共有されないことがある

改善策

- 申込時に導入担当窓口と探究授業を実際に担う担当教員両方を共有いただき、どちらの立場の方にも十分ツールを理解・活用いただく

課題③

教員との連絡

教員が大変多忙で連絡（電話・メール）がとりづらく、定性的な利用状況把握が進みづらい

改善策

- 管理責任者の教員に対し、統計データを手元で抽出できること、活用の方法について丁寧に説明する。説明会でもこれまで以上にきめ細かく対応する（ジャパンナレッジSchool）
- 統計データから活用頻度の低い学校を洗い出し、優先的に状況把握に努める。利用校が活用方法を共有できるコミュニティの構築など、スムーズなコンタクトを可能にする環境作りを検討する（アクチュアル）

課題④

生徒の使いこなし格差

生徒が自主的にツールを利用する学校の場合、個人による利用差が生まれやすい

改善策

- わからない点を生徒自身が解決しやすい環境をつくる ex.マニュアルやガイドのさらなる充実

■ サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等



教員

- 内容が非常に面白く多岐にわたっており、動画や資料など生徒の興味を引く工夫がなされている。
- 生徒自身の学習が深まった手ごたえを感じた。
- 教職員用の資料等を活用しながらよりよい指導につなげることができた。
- 探究のサイクルにおける「まとめ・発表・表現」の取り組みについて、“アクチュアル”で示された解決法から新たな学びを得ることができるよう、活動の振り返りとして活用できた。

生徒

- 探究は自分と向き合うものなので、そのための“アクチュアル”はとてもいいと思った。
- 探究のことが詳しく書かれていてとても助かった。
- 探究の目的を理解しながら進めることができた。
- とても使いやすく、探究の授業で活用できた。
- なぜ探究を学ぶのか今の社会はどのようにして変化してきているのかについて考えることができた。

ジャパナレッジSchool

教員

- グラフの資料がありがたい（“世界国勢図会”）。
- 内容が充実している（“ブルーバックス”他）。
- 新書をはじめとした学習を進めていく際に役立つコンテンツが多数収録されており、教員が読むことで教材研究や授業準備に役立った。
- 総合型選抜に向けた小論文指導で活用できた。
- 語句の意味を知りたいときには有用なツール。
- 読解力・表現力の向上も期待できる。
- 同じ書籍をもとに学べることは教科書のように使用できるのでとても有意義。

生徒

- UIがとてもよかったため、国語のノート作成時に活用できた。
- サイトを一度閉じても、本を続きから読めて便利だった。
- 教科書の内容を深く調べるとき漢字も調べて打つのは時間がかかるが、“ジャパナレッジSchool”によって疑問を手軽に調べられると思った。
- 言葉を検索すると、関連したことがたくさん出てくるところがいいと思った。

■会社概要

株式会社 紀伊國屋書店 概要	
会社名	株式会社 紀伊國屋書店
創業	昭和 2年1月22日
設立	昭和21年1月16日
代表者	代表取締役会長 高井 昌史 代表取締役社長 藤則 幸男
資本金	3,600万円
年 商	1,306億円 (2023年8月期 連結決算)
	1,002億円 (2023年8月期 単体決算)
総資産	629億円 ※2023年8月時点
経常利益	22億円 ※2023年8月時点
従業員数	5,000名

<事業内容>

和洋書籍・雑誌・事務機器・文房具・情報文献・視聴覚教材・教育設備の販売、出版、映像商品・書誌データベース制作、ホールの経営など

<事業所>

国内

新宿本店をはじめ全国主要都市に69店舗

7営業本部（28営業部・営業所）

82ブックセンター

海外

41店舗、6営業所・3事務所

<問い合わせ窓口>

株式会社紀伊國屋書店 学校教育営業部

Email: school@kinokuniya.co.jp

①大修館探究オンライン アクチュアル
<https://lp.actual.quest/>

②ジャパンナレッジSchool
<https://school.japanknowledge.com/>